

やさしい日本語を用いた動画で伝える、外国人向け生活情報

地域名 14班 コミュニティデザイン学科 木塚翔子 民谷浩樹
 パートナー名 (小山市・小山市役所国際政策課) 建築都市デザイン学科 黒木桃音
 社会基盤デザイン学科 杉山健斗 山内希望

背景

調査対象地である小山市には、外国人住民が多く生活している。それと同時に小山市では税金滞納率が年々増加していることが、地域の課題である。そこで、外国人住民にターゲットを絞り情報周知することで、結果的に税金滞納率を減少させることができると考えられる。

外国人住民にターゲットを絞った理由に、文化の違い、税金や国民健康保険などの日本独自の制度に対する理解不足を補いながら周知する必要があると考えたが、実際はどのような状況なのかを調査することが必要である。また、理解不足の主な原因の一つとして言語の壁が考えられるため、解決する方法を提案する必要がある。

方法

1stサイクル:市民税課・納税課・国際政策課への聞き取りアンケート(図1、2)
 2ndサイクル:動画作成①(小山市・市委託業者と協力)
 3rdサイクル:動画作成②、動画の意見をもらった。
 実際の動画作成は、私達の班と小山市・市委託業者と協力して行った。その中で私達の班は、動画の内容作成(ストーリーや構成、台本等)やさしい日本語の字幕作成を中心に行った(図3、4)

分析結果

1stサイクルでは、市民税課、納税課、外国人相談室などに聞き取りを行い、どのような層の外国人住民をターゲットとするかを教えてもらった。その結果、仕事をしているが税金に関する知識が不足している外国人住民をターゲットにすることにした。さらに、私達は滞納＝納めない人というイメージを持っていたが、実際は最終的には納めてくれるが、納期を守ってくれない人を指していることが分かった。

工夫点

市ホームページなどで現行の税制度を説明するものは、主に日本語で発信されていることから、内容を完全に理解するためには高い日本語能力が必要である。そうした問題を解消するため、やさしい日本語を用いることで、内容が伝わりやすい動画を目指す。

日本に住み、働く外国人住民にとって「税金」という用語・制度は必要不可欠なものであるから、動画内では翻訳せず「Zeikin」のまま用いることにした。

2ndサイクルでは、動画作成を行った。動画の内容は最低限理解してほしいものを中心に。やさしい日本語では分かりにくい同音異義語を無くし、漢字を極力減らす等、日本語への十分な理解がなくとも問題なく伝わるようなものを意識する。より分かりやすいものにするために、やさしい日本語だけでなく、東京オリンピックでも話題になったピクトグラムを用いる。それに加えて、海外の方々に興味を持ってもらうように、和装のキャラクターや「和」テイストのBGMを使用したアニメーションを土台にした。

やさしい日本語について、私達が調べたり国際政策課の方に紹介していただいた動画を見たりして、やさしい日本語への知識を深め、字幕としての使い方を勉強する。

工夫点

動画の内容は、督促状が届いてしまった対象者への呼びかけから入り、税金を納めなかったらどのようなデメリットが生じるのか、税金が納めやすいように現在展開されている税金の支払い方について「やさしい日本語」を用いて説明する。動画の最後では相談窓口へのアクセスをわかりやすく示し、その雰囲気も伝えることでより気軽に訪問してもらえるようにする。

3rdサイクルでは、窓口に来た外国人住民から「税金について楽しみながら知ることができた」、「封筒が来てびっくりしたことがあったが、動画を見れば市役所に行って相談すればいいとわかるので安心できると思う」、「手続きの待ち時間にこの動画が流れていたら、税金のことを勉強できるので便利だ」といった意見が出た。

考察

実際にまだまだ日本の税金についての認知度が低いことが分かった。よって、私達が作成した動画を観てもらうことは、日本の税制度の理解を高める手助けになるのではないかと考えた。

目的

1st

- ・小山市は外国人住民の数が栃木県内第2位である。(日本の総人口に対する外国人住民の割合は2.3%であるのに対し、小山市の割合は4.1%)加えて、日本の税制度を知らない人が多く、外国人住民の収納率を上げることが課題であった。
- ・そこで税制度がどのくらい知られていないのか、外国人住民の特徴などの現状を調査する。

2nd

- ・税金のことを知らない外国人住民に、税金の使い方や税金を納めないと自身や社会にどんな影響があるのかを知ってもらう。
- ・1stサイクルの調査で動画媒体が効果的と分かったので動画作成を行う。

3rd

- ・実際に作成した動画を用いてどのような場面、場所により影響力を与えられるのかを考える。より多くの人の目につくような使い方を模索する。
- ・市関係者等に観てもらい、動画についての意見や今後の活用方法について聞き取りを行う。

提案

動画活用法の提案

- ・動画を観てもらう場所は市役所のホームページ、広報誌、SNS等を提案する。また、待合室の電光掲示板でも放送する。
- 外国人住民は特定のコミュニティを持っていると1stサイクルの聞き取り調査から明らかになったため、特にSNSでの拡散は効果的だと考える。

動画のショートバージョンの作成

- ・プラスアルファを提案する理由として、今回作成した動画は5分と少し長いものになってしまったため、隙間時間に気軽に見てもらえるように、場面を分割したショートバージョンを作成する。

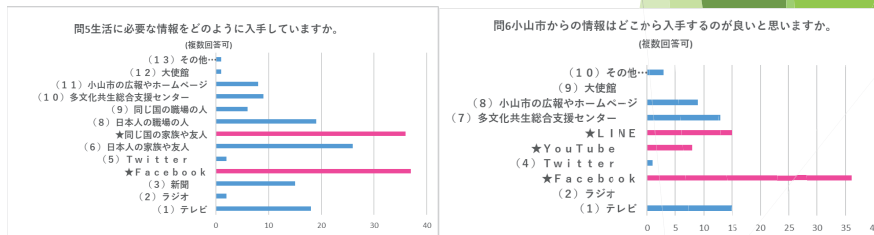


図1、2 外国人住民の情報収集について小山市が実施したアンケート



図3、4 動画作成例サムネイルと内容

